

こども環境サミット札幌

(モエレ沼公園・サッポロさとらんど・札幌サンプラザ 北海道札幌市 2008年6月27日(金)~29日(日))

EVENT REPORT

■会場：モエレ沼公園・サッポロさとらんど・札幌サンプラザほか市内諸施設を訪問 ●主催：こども環境サミット札幌実行委員会
(札幌市, 環境省, 北海道, 札幌商工会議所, 社札幌青年会議所, 北海道新聞社) ●特別協賛：北海道ガス(株)

KEY WORD

- 環境問題
- 国際交流
- 子ども

OUTLINE

「環境」をテーマに、世界の子どもたちがさまざまなプログラムを通して考え、交流し、地球環境を守ることの大切さを、メッセージに託して世界へ向けて発信する。

CHECK POINT

◆ボランティアが支えた子どもたちの国際交流。

DATA

〈参加国〉 オーストラリア, 中国, ドイツ, インド, フィリピン, 韓国, ロシア, シンガポール, タイ, アメリカ, 日本
〈参加者〉 小学校5年生から中学校3年である児童・生徒
〈参加人数〉 102人(海外40人, 国内62人)
〈告知宣伝〉 ポスター(札幌市関連施設, 地下鉄駅, 市内学校等に配布)
「こども環境サミット札幌」
公式HP

リリース送信

〈製作印刷物〉 ポスター 2,000枚
ガイドブック 800部
〈スタッフ数〉 運営スタッフ 約60人
通訳 12人

趣旨

2008年7月に開催される「北海道洞爺湖サミット」の記念事業として、日本と世界の子どもたちが交流し、地球環境の未来を考え、自分たちにできることを世界に向けメッセージを発信することを目的に開催する。



←日本を含む世界11か国、102人の子どもたちが参加したこども環境サミット札幌。最終日には鴨下環境相・上田札幌市長、そしてレスリングの浜口京子さんらアスリートの方々が応援にかけつけて、子どもたちと一緒に写真におさまった



↑開会式に続いて開催されたアルピニスト野口健氏の基調講演



↑ワークショップのトップバッターはオーストラリアチーム。石炭に頼っている豪のエネルギー作りについてスライド上映を交えて堂々と発表

内容

■イベントスケジュール

	会場	内容
6月26日(休)	札幌市役所	○海外のこどもたちによる札幌市表敬訪問 海外のこどもたち40名が、札幌市役所にて札幌市の加藤副市長を訪問。
6月27日(金)	モエレ沼公園	○開会式 (10:00~10:25) モエレ沼公園ガラスのピラミッドにて、「こども環境サミット札幌」の開会宣言を実施。
		○野口健 基調講演 (10:30~11:30) アルピニスト・野口健氏がグローバルな視点から地球環境の課題を投げかける。
		○ワークショップ1 (12:30~14:15) ○ワークショップ2 (14:45~16:00) 各国代表による環境をテーマにした発表会。
6月28日(土)	サッポロ さとらんど	○記念植樹 (16:30~17:00) ○フレンドシップパーティ 札幌市民との交流を図る。
	札幌ドーム 西岡公園	○環境学習 環境配慮施設である「札幌ドーム」と自然豊かな「西岡公園」を見学。
6月29日(日)	モエレ沼公園	○ワークショップ3 (13:45~15:30) ○ワークショップ4 (16:00~17:30)
	札幌サンブラザ	○ワークショップ5 グループタイム (19:00~21:00)
	モエレ沼公園	○ワークショップ6 (9:00~10:00) ○宣言セレモニー (10:00~11:00) ・3日間の活動の成果を、「こども環境サミット札幌 宣言書」として世界へ向けて発信する。 ・2月2日に円山動物園をスタートした「赤い地球儀」(*)が全国各地をまわり「こども環境サミット札幌」においても、世界のこどもたちにより青いシールが貼られた。 ※環境省チームマイナス6%の「ストップ! 温暖化こどもメッセージリレー」の中で、温暖化が進んだ地球をイメージした「赤い地球儀」を「青い地球」に塗り替えていくため、全国を回っている事業
札幌サンブラザ	○フェアウェルパーティ	



↑こどもたちからの地球環境に対する想いを「メッセージ」として世界へ向けて発信する



⇄最終日の宣言セレモニーで、こどもたちから上田札幌市長、鴨下環境相へ「地球の未来へ、いま、僕たち・私たちにできること」と題された「宣言書」が手渡された



担当者の 話

札幌市環境局環境都市推進部推進課

森 堅一 氏

イベントは世界の子ども達が交流し、地球環境の未来を考える場として、「北海道洞爺湖サミット」開催記念事業として実施しました。実行委員長でもある札幌市の上田市長が、92年の地球環境サミットの席上で12歳の少女が行なった伝説のスピーチに感動を受け、ぜひ札幌でも子ども達の素直な意見を拾い上げ、それを発信していきたいという希望を持っていたことが企画のきっかけとなりました。

具体的な準備が始まったのは約1年前。札幌と姉妹都市提携を結ぶ4か国を中心に海外から参加してくれる子ども達を募集し、最終的に海外10か国40人、国内62人の小学5年生から中学3年生までの102人が参加してくれました。運営面では、狭い空間の中で行なったワークショップが子ども達を疲れさせてしまい、当初の予定を変更し、外で自由に遊んだり話し合ったりする時間を設けるなど、引率者の方々の助言も取り入れながら、臨機応変に対応しました。遊びながらリラックスすることも子どもの姿を目にして、こういうイベントでは何より子ども達の体力や気持ちに合わせたスケジュールの取り方が必要だと実感しましたね。さまざま

な苦勞もありましたが、最終日には「子ども環境サミット札幌 宣言書」として、子ども達が世界へ向けたメッセージをまとめあげました。最後のお別れのパーティでは別れを惜しんで涙を見せる子どもも多く、子どもたちにとっても意義のある3日間だったのではないのでしょうか。イベント終了後、事務局には親御さんからの感謝のメールも届き、大きな達成感を感じるとともに、事故無く無事に終えることができたことにほっとしています。子ども達が作ったこの宣言書の内容を、広く市民に伝え、未来の地球環境を守るために、子どもたちと共に行動するよう市民の皆様にも働きかけるのが、我々の次の仕事です。

REPORT

〈募集は姉妹都市などのネットワークで〉

参加した子ども達の募集は今年2月に開始。札幌の姉妹都市である独・ミュンヘン、米・ポートランド、中国・瀋陽、ロシア・ノボシビルスクの4都市のほか、「アジア各国との交流を深めたい」（担当者）との想いから、韓国やタイなどアジア諸国に声をかけた。イベント進行は日・英2か国語で行なったため、海外参加の子ども達は英語ができることが条件。国内都市も含めると、学校単位での参加もあれば地元NPOの集まりまでその構成はさまざま。子ども達に環境についてのエッセイを書かせ、審査の上で参加者を決めた国もあったという。

〈国際交流ボランティアが活躍〉

子ども達は10のグループに分かれて行動したが、日々の食事や生活、ワークショップでの議論まですべての活動を支えたのがボランティアスタッフだ。担当したのは（財）札幌市青少年

女性活動協会で、協会スタッフのほか同協会に登録する国際交流ボランティアが参加。メンバーはコーディネーターを務めた藤女子大学・小林教授のもとで環境問題に関する講義を受け、環境問題に関する知識を身に付けたうえで臨んだという。

〈「時間管理」と「意思統一」に難しさ〉

2か国語での進行は、ひとつの説明をするにも2倍の時間がかかる。また今回は各グループが宣言のテーマをひとつに絞り込み、それを全体でまとめて宣言書を作成したが、「こういうことをやるという意図を各国に説明し、意思統一を図るのは予想以上に難しかった」と担当者は振り返る。それでも子ども達は精力的に課題に取り組み、宣言書にはすべてのグループの提出したテーマが盛り込まれ、最終日のセレモニーで鴨下環境相、上田札幌市長に手渡された。

〈共通体験が生んだ

子ども達の友情の輪〉

取材した初日の朝、子ども達の顔には一様に緊張感が漂っていた。それが昼食を挟み、プログラムが進むごとに和らいでいくのが感じられた。「2日目の自由時間に、あるグループがハンカチ落としゲームを始めたんです。すると、いつの間にかそれを見ていた別のグループの子ども達が加わって、最後には本当に大きな輪になったんです。とても感動しましたね」と担当者。広がった遊びの輪は、そのまま子ども達の友情の輪。今回の試みのもう一つ大きな意義を実感する光景だったのではないだろうか。

(6/27(金)・7/2(木) 横山真紀)